



えびなともよし
海老名 友好さん

プロフィール

36歳。峰町佐賀出身、在住。前回登場の沖津さんとは幼馴染。高校卒業後、大阪での勤務や地元での真珠養殖などを経験した後、峰町東部漁業協同組合に勤務。現在、販売のほか漁船の保険や指導を担当。子どもの頃から無類の釣り好き。冬はクロ、夏はイカを狙う。7年前からジュニアソフトボール「東小ビームズ」の指導者として子どもたちの成長を見守り続ける。奥さまと中3の長女、小4の長男の4人家族。

ジュニアソフトボールの指導に
関わるようになったきっかけは？

僕は、東小学校になる前の佐賀小学校時代に「佐賀ビームズ」という名前で活動していたソフトボールチームのメンバーでした。中学校からはソフトボールチームがなかったのでもバレーボールに転向。社会人になってからもバレーボールや野球のチームに入っていました。ビームズは一時期活動を休止していたんですが、7年ほど前に地元の子どものためにチームを再び立ち上げてくれた人がいらっしやっただけです。その方からコーチをしてもらえないかと頼まれたのがきっかけで携わるようになり、初めの3年間はコーチ、4年目からは監督をしています。コーチになった頃には自身の野球をやめて子ども中心で活動するようになりました。「一に仕事、二にソフトボールの指導」というくらい大切な活動ですね。平日は夕方から、週末も練習練習の日々です。

指導者になって気づいた点は？

毎日成長する子どもの姿を目の当たりにできますから、教えるのは楽しいです。子どもによって成長の仕方も違いますから、その子に合った指導も考えながら接しています。子どもが好きなんでしょね。子どもがやる気を出してい

る時は楽しいですよ。逆に、子どもが動かないときは怒ります(笑)。優等生ばかりじゃないですから。そんな勘所も、子どもとつきあっているうちに僕が教えられるし、僕自身成長させられます。

教える子たちに望むことは？

ソフトボールでも野球でもバレーボールでも何でもよいから、何かを続けて携わってほしいですね。なぜかという、全てにおいてやっぱり人付き合いが広がるじゃないですか。私も指導をさせてもらうことで保護者さんとも知り合えるし、ほかのチームの監督さんやコーチさんとも知り合いになれる。その人たちの子どもとも触れ合えるし、ものすごく人間として広い世界で付き合えるようになったんです。いろんな人と接すると、自分と違う考え方も知ることができると、いろんなことを教えていただけから。競技以外の部分で得るものは必ずあるし、結局はそこが一番大事だと思うんです。知り合いが多かったら、人間的に教えてもらうことがたくさんあります。人のつながりって、絶対損はしませんもんね。

「東小ビームズ」今後の目標は？

対馬では県大会出場がかかった大きな大会が年3回あるんですが、まだ一度も勝ってないんです。惜

しいところまではいくんですが、子ども達も悔しがってますけど、それ以上に私が悔しい(笑)。だから、県大会出場が目標です。

あと、将来教える子と酒が飲めたら、それが一番いいな」という気分で教えています。子ども達が大きくなって、一緒にお酒を飲むようになるというのは、また違う付き合いが始まりますよね。一番最初の教える子たちは、もうすぐ20歳なんです。今でも中学生や高校生になった教える子が練習にきてくれますよ。そういう姿を見ると嬉しいです。いずれその中の一人でもいいから帰ってきて、僕と交代できたら(笑)。自分の教える子に代わりできるなんて、幸せですよ。自分が活動したチームが今もあるといのは、卒業した子どもたちにとっても嬉しいですよ。

そうですね、帰ってきたら「あそこに行ったらいてくれる」という感じがして。そういう点でも、やっぱりこのチームは絶やせないんです。現実、部員大募集中です！ぜひぜひよろしく願いますー(笑)

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくコーナー。今回は厳原町小茂田にお住まいの美佐保真さんです。お楽しみに。